

# 千里大学 自主研究活動をまとめた発表

南富良野町の高齢者大学「千里大学」(池部 彰学長)では、昨年からの学習計画に「自主研究」を取り入れ、各科(本科・大学院・専修科)において研究テーマを設定し、通常の授業時間以外で、約半年をかけて調査・研究が行われていました。このほど、その自主研修の成果をまとめ、2月28日の公開授業において「発表会」が行われました。

研究成果は、それぞれ各科目に全員で分担し、レポーター形式で成果をまとめました。調査研究においては、資料収集のほか、現地調査活動やテーマに基づく実践が行われ、充実した自主研究活動となりました。

各科における「発表内容」の概要やレポートの一部を紹介いたします。

## ◎本科研究テーマ「地」 史跡マップをもとに現地確認

本科生12名は、郷土資料室の見学と平成20年に作成された南富良野の「史跡マップ」を基に、本町主要産業の農林業、町の開基となった金山地区、北落合地区の学校の歴史などについて調査しました。  
 ・(主な調査箇所)  
 ・三ノ山峠(忠犬八千公の碑)

- ・種子馬鈴薯発祥の地(幾寅)
- ・森林鉄道(金山・下金山)
- ・水田発祥の地(下金山)
- ・新生橋渡船場跡(下金山)
- ・金山隧道と逸話(金山)
- ・十梨別橋と砂金採取跡
- ・森田の沢温泉跡(金山)
- ・聖徳太子17条の憲法碑文
- ・北落合尋常小学校跡



本科生による橋梁の発表の様子

【ビート糖づくり】  
 はじめの発表はてん菜で、町内のでん菜作付の推移や道内の砂糖生産の沿革、てん菜の分類や品種などが紹介されました。【てん菜は、大正10年頃から町内で作付され、昭和40年代には176ha、現在は62haが作付されている】  
 実践では、昔は家庭でも作られていたビート糖づくりを行い、12個の大きなてん菜をよく洗い、力を込めてスライスしました。切ったてん菜は、お湯を70℃に維持しながら3時間ほど煮込み、灰汁を取りながら、12kgのてん菜から1kgの甘い糖蜜がで上がりました。煮込んだてん菜は、油で揚げてほんのり甘いビートチップスを作り、試食したそうです。



大学院生の手作り紙芝居

## －発表の抜粋－ (本科)

◆ハッカ蒸留釜跡  
 あまり知られていませんが、下金山で昭和31年頃にハッカを栽培し、蒸留されていました。その場所は、畠山さん宅の奥の町道沿いで釜跡を確認しました。大部分は朽ち果てていますが、歴史の遺産として、保存伝承が必要と思いました。

◆森田の沢の温泉跡  
 金山の十梨別川支流ポントナシベツ川沿いの森田の沢林道に進み、温泉(冷泉)が出ていた場所を確認しました。昭和50年にサンプルを採取し、北海道衛生研究所で分析したところ、泉質は「単純硫酸泉」でした。【温度:8.2℃・湧出量:毎分40ml】

◆北落合尋常小学校跡  
 山形県出身の川合嘉十(かわいがじゅう)という人が大正の初め頃、落合で農場を経営し、大正5年以後「豆」の景気が良くなり、小作人が増加し子どもも増えたため、大正8年4月川合農場に「南富良野村簡易教育所東特別教授場」が設置され、これが北落合の教育の始まりでした。場所は、親睦地区の民澤善太郎さん(田口洋子さんの父親)のところでした。大正9年11月30日に閉鎖となりましたが、昭和11年4月に入植した三ヶ田源次郎さんの隣接地に昭和11年11月17日「北落合尋常小学校」として開校しました。昭和22年4月1日には「南富良野村立北落合小学校」と改称され、専修科田口洋子さんや本科大西カズ子さんも通学されました。校舎は昭和30年11月まで使用し、その頃、北落合地区の開拓が盛んとなり地域の人口も増えたことから、昭和30年12月26日に現在の地にブロック造りの校舎が建てられ、平成4年に現在の校舎が新築されました。

## －発表の抜粋－ (大学院)

大豆と稲わらで納豆を作ってみる  
 煮えた大豆の水分を切り、温かいうちに「わらつと」にシヤモジ1杯程度入れます。この時に、わらの切れ端数本を縛り、豆の中に入れて、納豆菌がいきわたるようにします。これを「仲人さん」といいます。納豆菌は、芽胞から発芽して増殖を始めますが、その時の適温は、30～45℃で、湿度と十分な酸素も必要です。保温方法は、発砲スチロールの箱に入れ、500mlのペットボトル10本にお湯を入れ保温しましたが、翌朝には冷え切っており保温効果は得られませんでした。そこで、昔からの知恵で「ゆたんぼ」で保温しました。その結果3日目で、20本の稲わら納豆が出来上がりました。

## 【納豆づくり】

大豆の分類や名前の由来、納豆の生産地や名称の由来、栄養価や香りの種類などの調査結果を発表しました。実践では、日本独自の食品、稲わらを使った納豆づくり挑戦しました。無農薬栽培の稲わらのほこ



大学院生の手作り紙芝居による発表の様子

## －発表の抜粋－ (専修科)

◆金山発電所について  
 金山発電所は、地元でありながら施設見学する機会がありませんでした。発電所は、普段は無人で管理は北海道電力旭川水力センター発電課が担当し、100km離れた旭川でモニターを見ながらコンピューターで遠隔操作して発電を行っているという驚きでした。社員の方が月に2～3回点検に来ているそうです。施設については、発電機など設備が稼働しているの、とにかく騒音が大きくて説明も聞きづらい程でした。計器盤などは1階ですが、機械設備は地下であり、何段もの階段を降りて行くと、最下位には導水管と羽根車の装置があり、ここでかなやま湖に貯めた水が勢いよくタービンを回していることを、音で体感することができました。

りやごみを半日かけて取り除き、煮沸して乾燥させる作業から取りかかり、納豆づくりが始まりました。乾燥した稲わらで「わらつと」を作り、煮た大豆を入れ、保温に試行錯誤をしながら3日間寝かせ、風味のあるおいしい納豆が完成しました。

## ◎専修科研究テーマ「水」 空知川の流れと、富良野地

域の湧水を訪ねて(1年生) 川の行方の現地確認パート 2(3年生)  
 専修科23名は、1年生と3年生のそれぞれで、研究活動が行われました。1年生は、町内を流れる空知川の橋梁と金山発電所、富良野沿線の湧水について調査を行いました。



金山発電所内を視察する専修科生

川名・完成年月日)の規格や取付位置の仕様などが発表されました。また、金山発電所の様子や湧水周辺の様子や利用状況などが報告されました。3年生は、

南富良野町と占冠村の境界にある狩振岳を源流とする鶴川を調べ、占冠村の源流からむかわ町までの川幅や流れの様子、そして、特産品のシシャモも紹介されました。また、むかわ町の港で汲み取った海水を持ち帰り、塩を取り出す実験を行いました。途中失敗しましたが、海水14ℓから塩250g、二ガリ200gを取り出すことが出来ました。

学生の皆さんは、慣れないマイクに緊張しながらも、それぞれ発表を分担し、丁寧に工夫を凝らした分かりやすい説明をしていました。無事発表を終えた安堵と、学習目標に沿った充実した自主研究活動となった達成感から、皆さん笑顔で讚えあい、本年度の自主研究の成果を共有しました。



鶴川源流を視察した専修科生(占冠村)